狭山市立堀兼中学校

学びの道（学びのたより）

学校だより　第　２０　号
令和８年　１０月１４日
狭山市立堀兼中学校
校　長　　田中正悟

『第80回体育祭』

『燃えろ堀中　熱すぎて　滅！』

『応援することの素晴らしさ。
応援できることの素晴らしさ!
そこに生まれるのは、Move someone emotionally』

【開会式】　今年の体育祭のスローガン　　『燃えろ堀中　熱すぎて滅』
～開会式で話した校長の言葉の内容～

「“滅”の意味…予行練習の話の時には、“鬼滅の刃”の炭治郎についてふれながら、『自分の中の“鬼”、ミスをした人を責める心の鬼、大声を出したいけれども浮くかもしれないし、どうしようかと戸惑う心の鬼、などなど、そんな『自分の心に芽生える良くない鬼』を滅していこうというお話をしました。その後、職員室で○○先生から、「『好きすぎて滅』という歌があって、そこから来ているようですよ」と教えてもらいました。その話を聴いて、すぐに調べました。M!LK の歌う『好きすぎて滅』から来ているのですね。その後、YouTube で M!LK の『好きすぎて滅』の歌を聴きました。なんだか明るくて乗りが良くてエネルギッシュな歌ですね。楽しい歌でした。

そしてまたその後、スマホで『滅』の意味を調べました。そうすると、今、若者の世界では、『滅』は『感情があふれすぎて、自分が消えてしまいそう』という意味があることを知りました。私自身、学びがありました。そして、若者は、言葉の意味さえも新しくつくっていく力・パワーがあることも感じました。

『燃えろ堀中　熱すぎて滅』、気持ちやエネルギーを夢中になる中で限りなく溢れるまで湧出させ、熱くなって、『“滅”』していきましょう!!

君の『熱すぎて滅』の表情と姿を、この目と心に焼き付けます。

保護者の皆様、地域の皆様、ご来賓の皆様、本校生徒の『燃えろ堀中、熱すぎて滅』の姿をご覧ください。

生徒に皆さん、今日は『燃えろ堀中、熱すぎて滅』を具現化する日です。“夢中”“堀中の体育祭”を表現しましょう!!　楽しみにしています!!」

写真

『開会宣言』

（副実行委員長：○○さん）



写真

『団長による選手宣誓』

（赤団：○○さん、青団：○○さん、黄団：○○さん）

【体育祭『生徒が輝く』写真】

写真を掲載しました

【閉会式】

閉会式では、閉会宣言を青団○○さんがおこないました。立派な団長で体育祭実行委員長のを教職員に残してくれました。そのなメッセージを全校生徒そして君たちに送りました。後、校長の私は次のような話

写真

「今、先ほど、○○さんがみんなに伝えてくれたメッセージ、本当に素晴らしかった。一生懸命に取り組むからこそ、心から嬉しい思いができたり、悔しい思いができたりする。確かに、頑張ったことが結果に出ることは嬉しい。結果に出せることを目指して私たちは頑張る。しかし…、人生というものは、頑張ったからと言って、必ず良い結果が出るものとは限りません。（私の経験上、）むしろ、頑張っても結果に出なくて辛い思いや悔しい思い、悲しい思いをすることの方が多い。しかし、私はこのような実感も持っています。結果を出すために、努力をする、頑張る、その取り組んでいる過程がものすごく大事であるということ。たとえ結果に出なかったとしても、その過程で取り組んできたことが、その後の人生に大きく生きていくということです。結果が出なかったことは、失敗ではありません。むしろ、結果を出そうとして取り組んだその過程で得られるものこそが、自分自身や共に取り組んだ集団の向上や成長につながる、未来に必ずつながります。

また、今日の体育祭を通しての講評を一つお話しします。それは、『応援』です。君たちの応援は、本当に素晴らしかった。例えば、同じ団の仲間や同じ団の各学年が頑張っているところを応援するのは、ある意味、当然のことでしょう。しかし、私は次のような場面を目にしました。例えば、赤団の生徒たちが、最下位でゴールを目指して頑張っている他の団の個人やチームに声援を送っていました。この応援、本当に素晴らしいと思いました。優勝を目指して競い合っているライバルにも、その頑張っている姿や姿勢に声援を送る、応援する。このことの素晴らしさ。この『応援する』『支える』力が、どれだけ有り難いか。きっとそのような、誰かのために『応援する』『支える』『協力する』力が、これからの未来を、これからの社会をつくっていくのだと思います。このような場面をこの体育祭でふれることができて、私は目頭が熱くなる瞬間がありました。これからの未来をつくっていく君たちをこれからも応援し、支えていきます。温かく和のある未来を、他を支えて、協力して協働していく社会を、君たちがつくっていってください。君たちに期待しています。素敵な姿と心を見せてくれて、本当にありがとう。」